

事業所における自己評価結果

事業所名	岐阜市立恵光学園
------	----------

公表日 令和 8年 3月18日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか	11	10	<ul style="list-style-type: none"> ・親子登園の場合等は狭く感じる場面が多く、もっと広いスペースがあると良いと思う。使用しないものは事前に外へ運び、効率的にスペースを使用するなどの工夫をしているが限界がある。 ・全親子の日など、手狭に感じる。できるだけ、戸外に出たり、遊戯室なども他クラスと時間差にしたり譲りあったりして使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子療育だが、全親子登園になると部屋が狭く、部屋での活動や食事のスペースが窮屈になっている。 ・見学などの来訪者がいると狭い。 ・特に年長、年中児が多いクラスは子どもも体が大きいので、より狭く感じ、子どもが食事の片付け時などに人をかき分けて歩く状態。親子療育をするには教室が狭く修繕では解決できない。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	16	5	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの定員に対する職員の配置基準は満たされている。職員の人数を増やしてもらえたので、随分改善されたと思う。 ・活動内容やこどもの状態に合わせて、柔軟に職員配置を見直しながら、必要な体制を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園の保護者支援も重要であり、子どもの状況によっては3人の担任で手が足りないと感じることがある。 ・平素は適切で、職員は増えているものの、イレギュラーがあると足りないことがある。 ・フリーの職員がもう1名いると、子どもが不安定な時や、基本的な生活習慣に取り組む時などに丁寧に支援が行え、活動内容も広がると思う。（散歩や仲間遊びなど） ・1、2歳児など未満児が増えている。保育所のように看護師がいると安心。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	15	6	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも子ども達が生活しやすいよう構造化された空間にしようと努力しているが、限界がある。 ・スペースが限られており、収納等に難しさを感じられるが、手作りで補いながら工夫して環境を整えるように取り組んでいる。 ・視覚支援をはじめ、構造化、環境調整をじゅうぶん行っているが、建物自体が古いため限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物自体が古く、設計も古い。徐々に修繕を行い、怪我がなく安全に生活するための工夫をその都度しているが、こどもの生活や過ごしやすい環境とまではいかない。 ・不安定になった子どもがクールダウンできる場所が各フロアにあるといい。 ・長い階段や段差があり、バリアフリー対応にはなっていないと感じる。 ・トイレの数が少なく、大人のトイレも男女一緒である。トイレの環境などが改善されるといい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか	18	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月施設点検をして、子どもの想定外な動きがあっても怪我がないように確認しているが、建物自体が古いので限界はある。 ・毎日の丁寧な掃除で、清掃は行き届いている。 ・女の子がトイレを使用する時に、個室空間になるように衝立を使用するなど、配置や手作りの道具などで工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化は感じられる。 ・トイレの子どもの着脱の姿が、親以外の大人からも見えやすく改善の必要がある。 ・手洗いは冬でも冷たい水を使用。感覚過敏がある子どもにはしんどいため、お湯が使えるといい。 ・室内を清潔に保とうとしているが、施設自体が古く、害虫類がよく発生する。

	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	16	5	<ul style="list-style-type: none"> ・不安定な時や体調不良時等、必要に応じて別室を使用して対応している。使用するスペースの確保のために、部屋に置いてある荷物をベランダに移動するなどして使用することが多い。 ・常に使用できる空き部屋があるわけではないため、そうした対応が難しい場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも使用できるとは限らないため、自由に使える個室があるとよい。また、大人の目が行き届き、クールダウンできるスペースがあるとよい。 ・相談室不足で、子ども用スペースを使用してしまうため、足りないと感じている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams上に職員目安箱のチャンネルがあり、業務改善について意見を出し合える場所がある。 ・週例会議として職員会を実施し、意見交換や意思統一できる機会を多く設けて、業務改善に取り組んでいる。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園管理アプリ「コドモン」を導入し、常に意見や情報の交換が容易にできるようになっている。また児童発達支援ガイドラインに基づき、年に1回保護者アンケートを実施している。保護者の意向やアンケート結果を受けて、可能な限り改善を行っている。 	・業務改善に繋がっているかは分からない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・週例会議として職員会を実施し、意見交換や意思統一できる機会を多く設けて、業務改善に取り組んでいる。管理者(園長)が定期的に面談による聞き取りを実施している。 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・3年毎に第三者評価を受審しており、その結果に基づいて改善を行っている。 	・業務改善に繋がっているかは分からない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画を作成し、正規・非正規職員全員が順番に外部研修等にも参加できるように調整している。外部研修のほか、職員による職場研修、講師を招いての職場研修等を計画的に実施している。職員を「新任」、「中堅」に分けて、段階的にスキルアップ研修を通して専門性を高め、専門的人材の計画的育成を進められるように「患光学園職員育成プログラム」を作成している。 	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容を基に5領域の視点で支援プログラムを作成し、その内容をホームページで公表している。 	

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・項目別に園児一人一人の現状をアセスメントし、目標を定めて支援方法を明示している。必要に応じて公認心理師が発達検査を実施して、客観的に子どもの発達状況を確認している。 ・フォーマルなアセスメントだけでなく、インフォーマルなアセスメントを日々の活動の中で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後多様な通園を展開していくため、発達段階アセスメントシートを使用して個別支援計画作成時のアセスメントをしていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作成する際には児童発達支援管理責任者と担任で丁寧に話し合うことができている。 ・児童発達支援管理責任者及びクラス担任間で一人一人の園児についての育ちを共有しており、検討会議を実施して計画の立案を進めている。発達支援の方法のみならず、保護者の要望や、進路に向けた準備等についても保護者との面談で話し合いをしている。 	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った支援が行えるよう、担任間で子どもの登園前と登園後に一人ずつの子どもについて話し合いができている。 ・職員間で共有し、計画に合わせた支援ができるように取り組んでいる。 	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で話し合っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の行動観察に加えて、標準化されたツールとして、今後発達段階アセスメントシートを使用していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	21	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担任間で話し合っ活動を計画している。 ・クラス担任間で意見交換しながら立案している。 	

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの子どもの発達支援に必要な活動を考えて提供している。固定化しないよう様々なプログラムを提供している。 ・季節に合わせた内容を取り入れながら、運動あそび、仲間あそび、リズムあそび、制作あそび等、様々な活動プログラムを提供している。 ・子どもの心身の成長を見ながら変えていつている。 	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動は実施していない。全員ではないが、対象者を決めてPECSを実施している。 	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援前の時間に引き継ぎや打ち合わせを行っている。 	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルな会議・打合せが即時に行われ、必要に応じて担任以外の職員とも共有している。 ・職員の勤務時間やバス添乗、会議などにより、毎日必ずとは言えないが、できる限り共有することを心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが帰ってから話し合いをする時間を持つことは難しい。 ・行事などで活動準備が忙しく、共有したいことが後回しになってしまう場合もある。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・記録は振り返りの機会でもあり、次の支援につなげるために、効率的に記録をとることを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず記録をとることを大切にしているが、他の業務に圧迫されることが多々ある。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達状況に合わせて、年2回以上児童発達支援計画を見直している。 	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員や障害児相談支援事業所との話し合いには、子どものことをよく分かっている担任が対応している。 	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所（園）、こども園へ就園する時は、園の担当者に学園での姿を見に来てもらい、就園後には学園から園の姿を見に行っている。また、園と併用している子どもに対しても連携して支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分ではないので、より連携をとれるよう働きかけていく必要がある。 ・現在、幼稚園や保育の現場が大きく変わってきているため、より多くの職員が経験できるとよい。 ・就学先への見学や実習を実施できるとよい。

26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	20	1	・今年度より週1日コースを開始し、併用利用することで、学園の支援で上手く生活できた方法を園で取り入れたり、園で使用している物、帽子などを学園生活で取り入れて慣れていくなど、相互で子どもの生活しやすい方法を考えている。	・行っているが、まだ充分ではない。 ・保育園と児童発達支援センターが同じ建物で保育できると、よりインクルージョンの推進が進むと考える。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	0	・就学前には就学先の先生に実際に子どもの様子を見てもらう機会を設けるようにし、口頭や文書による引継ぎを行っている。	・小学校の先生の業務が多く細かい連携が取れていない様子がうかがえるため、簡潔で分かりやすい引継ぎ資料の作成をする工夫が必要。
28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか	20	1	・学園で実施する職員研修を案内したり、療育実習の受け入れを積極的に行っている。 ・ペアレントトレーニングの実践力向上研修を行い、他機関でも実践できるようにフォローをしている。	・恵光学園が地域に根付いていない、地域と関わりを持って、連携もとりながら、場所や役割を知ってもらう事が必要と感じる。 ・地域支援事業の拡大で、恵光学園の周知を図っていく。多様な通園形態を展開していく中で、障害児通所支援事業所と連携を取り、支援内容について情報共有を行う。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	21	0		・職員の外部研修への参加を実施していく。
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	16	5	・外部の会議に参加する職員を固定化せず、多くの職員が参加する機会を持つようにしている。	・自立支援協議会に、会計年度職員がいくことがない。一部の職員だけ参加しているのよう感じる。
31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか	20	1	・インクルーシブ交流活動として、ながらこどもの森との交流活動を継続的に実施している。今年度、鷺山保育所との交流を新たに実施した。	・もっと地域の中で他の子どもと活動する機会を作るべきである。 ・今年度、新入園児を含む一部のクラスで公立保育所との交流を実施した。今後、回数を増やしながら継続していく。
32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	21	0	・単独登園の日の様子は、できるだけ具体的に伝え、子どもの頑張りを保護者と一緒に認めていくように心がけている。	

	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	21	0	・ペアレント・トレーニングは、前期、後期で曜日を変えて実施している。また、欠席した場合は、個別に内容を説明する機会を作って継続参加できるように工夫している。	
保 護 者 へ の 説 明 等	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	21	0	・児童発達支援管理責任者が説明している。また、コドモンの資料室でいつでも閲覧できるようにしている。	・利用者負担等の理解が弱い。
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	21	0	・子どもの行動やしぐさ、発達の状況から思いや願いを汲み取り、児童発達支援計画に取り入れている。 ・保護者の意思や意向は、親子療育中や懇談で確認している。	
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	21	0		
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	21	0	・個別懇談や保護者懇談の機会を設けるほか、保護者に「個別（懇談）希望カード」を配布し、「相談を担当してほしい希望職員」を選んで希望による相談を随時受けられるようにしている。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	21	0	・親子療育を基本としているため、日々の療育を通じて保護者間交流がある。保護者学習会や保護者同士のフリートーク、給食試食会などの交流機会を設けている。今年度、きょうだいふれあいデーを実施した。	・夏休み期間を利用したきょうだいふれあいデーできょうだい同士の交流を今後も継続実施する。
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	21	0	・日々、保護者の思いを傾聴しながら、こどもの療育内容を共有して進めている。個別懇談や保護者懇談の機会を設けるほか、保護者に「個別（懇談）希望カード」を配布し、「相談を担当してほしい希望職員」を選んで希望による相談を随時受けられるようにしている。	

40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	20	1	・ホームページやパンフレット、通信（けいこう）等により、サービスの内容等を公表している。登降園管理アプリ「コドモン」を活用し、活動等の状況を保護者と共有している。	・恵光学園の役割をもっと発信していく必要がある。
41	個人情報の取扱いに十分留意しているか	21	0	・教室で使用しているタブレットについても、教室外で活動する時は消すことを徹底している。	
42	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	21	0	・園児の状況に応じて、身振り、指差しや絵カードなど、言葉以外の方法を使った意思表示（コミュニケーション）が図られるよう工夫している。活動の中で「〇〇ほしい」「手伝ってほしい」「トイレにいきたい」など、意思表示を促す場面を作ったり、意思表示ができるまで待つなどの配慮をしている。PECSの研修を受講した職員が絵カードを使って自分の気持ちを伝えることを学ぶための方法について、実践的な取り組みを行っている。	
43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	18	3	・今年度はじめて、ファミリーフェスティバルに在籍児以外の家族(外来で相談にみえた家族)を招待したが、恵光学園を知ってもらうため、もっと開かれた施設でありたいと思う。 ・行事ボランティアの受け入れを行っている。	・まだまだ地域に開かれていない。 ・今後は、園庭開放や地域住民が参加できる行事の実施などで、学園を理解してもらえると良い。
44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	21	0	・各マニュアルを整備し、研修や訓練を計画的に実施している。登降園管理アプリ「コドモン」の機能を利用して、保護者の伝達訓練を実施している。各マニュアル等について、「コドモン」の資料室内に格納し、保護者にも情報を共有している。	
45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	21	0	・業務継続計画を策定しており、年度ごとに内容を見直して改訂を行っている。研修や訓練についても計画通り実施している。	

非常時等の対応	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	21	0	・事前に服薬や発作等のこどもの状況について職員間で情報共有している。ダイアアップ使用やブコラム、エピペン処置について、看護師、薬剤師から定期的に指導を受け、医師の指示書に基づき場面に応じた対応ができる体制を整えている。	
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	21	0	・食物アレルギーがあるこどもの対応について、職員マニュアルに定めており、主治医の意見書に基づいた対応を行っている。 ・除去食のお皿の色をかえ、間違えないように工夫している。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	21	0	・安全計画を作成し、計画に基づいて研修や訓練を実施している。引き渡し訓練や水害時の避難訓練、非常食訓練を昨年度より新たに実施し、今年度も内容を見直しながら継続的に取り組んでいる。	
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	21	0	・安全計画について、保護者向けに説明を行い常に内容を確認できるように登降園管理アプリ「コドモン」の資料室内にも格納している。避難訓練等の予定を保護者にも周知するとともに、親子登園時には保護者も避難訓練に参加し、実際の避難状況についても共有している。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか	21	0	・日々の療育の中で起きた事故に結びつきそうな事案はヒヤリハットを作成して全職員で共有している。	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	21	0	・子どもの権利委員会を設置し、虐待など権利侵害の状態になっている園児の早期発見に努めている。子どもの権利委員会のアンケートでは、虐待に対して職員の自己チェックに加え、他者のチェック欄もあり、職員同士が互いに検討し合える体制ができている。	
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	20	1	・子どもの権利委員会を設置し、虐待など権利侵害の状態になっている園児の早期発見に努めている。子どもの権利委員会のアンケートでは、虐待に対して職員の自己チェックに加え、他者のチェック欄もあり、職員同士が互いに検討し合える体制ができている。 ・身体拘束を行うことはない。子どもの支援(特に苦手なこと)を行う際は、保護者に説明をし了解を得てから行っている。	・身体拘束を行うような事例は今のところないため、児童発達支援計画への記載もない。 ・今後も支援場面において必要な場合は児童発達支援計画に記載していく。

<p>その他</p>	<p>53 その他、お気づきの点やご意見がございましたら、ご入力ください。 (例： 給食、療育環境、園外活動、親子療育など) (任意)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵光学園が、問題や悩みがあったらくる場所ではなく、もっと全ての親子が相談しやすく、入って来やすい場所であるといい。 ・ 地域の幼稚園、小学校中学校の子どもたちに遊びに来てもらいたい。 ・ 地域のお年寄りと一緒に食事をする機会があるといい。 ・ 園庭開放で地域の親子や、幼稚園、小学校の子どもたちが遊ぶ場所や機会を学園で作ってほしい。現在の園庭のスペースや遊具の配置を考えると難しく、大幅な整備が必要。
------------	--	--	---

